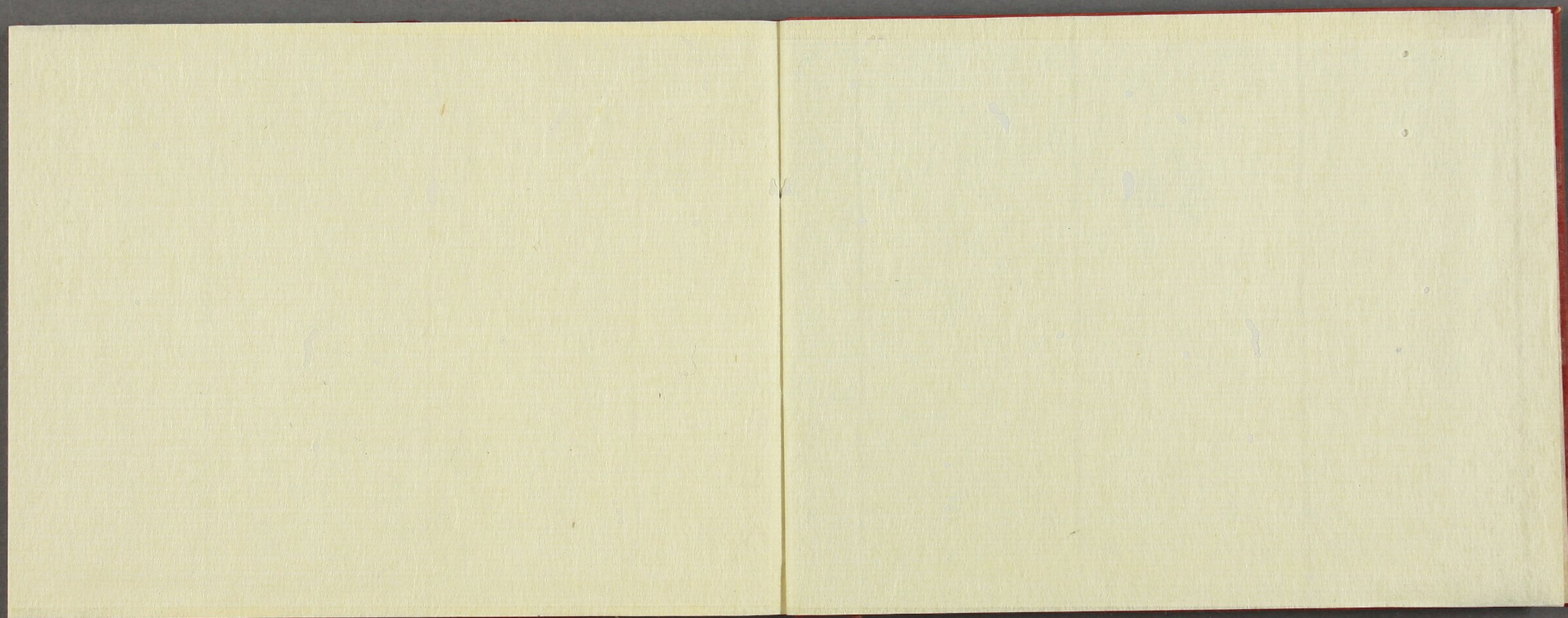


鎬





源氏中歳より秘すとの
事あり横笛乃次の年也豈
之蓮也董之才也

高のつらきとびのーいふに
つらきつらきとびのーいふに

友のつらきとびのーいふに

池乃蓮也

のつらきとびのーいふに

のつらきとびのーいふに

持佛也平生の教一也

仏とら也

持佛といふはたのつらきとびのーいふに

よのつらきとびのーいふに

あつと 供養せらる也

御ねんすまふくとも

持仙は俗禪の何よりあ

る一今すてい堂なる

一故道具とも六色花の

西沙沽より細くも也

むらさきのうへ 幡なるも

是とをりれ也

とろみゆらゑなるもはさういふ

了 花札覆緋文紗目深也

應和元年五月十八日御

託日經櫃各置花足下

机加花文綾羅二色綾

地敷

より仲ん

秘 深川より

物也 同今世のこれ

なるものこれ物也唐織物

也只の綾なるに深川

くらまに

よるれをらるなり

以佛壇の持仏堂とすはあり
と如之言れつねにたゞ一乃
と夜に御帳と仏壇とを
つら也の帳曰西とありけ
字一乃此方に曇茶羅と
けられら也常此法念の
儀也

一乃此法念と
蓮花あり
一乃百部乃えとあり

中
くはえとありとあり
本とありえとありと董
衣香乃公とありと唐
の方とあり命とありと
字一乃菩薩 脇士善
蔭也 阿弥陀乃脇士觀
音菩薩也

あみく 阿伽具 梵語也
阿彌陀經
よ青黄赤白の蓮あり

これと造苑と見せたり
あつたよふ今頃也
えとれやと 行楽方
ともて蓮苑よまうけ
け方び用らる也
えとれやと けふも
みらに巻也 仙前を
生敷と見て巻と除け
粉合あつてうら也
巻に蜂 巻と蜂也

いふ川なり 池乃蓮
なりあひて也
六部ともなり 女三宮
これあつてあり 他等
るん池ん
御持經の 女三宮七持經
源氏此事始つる也
これとて 源氏と女三宮
と今生れあつて断絶
つるよとあり也

阿弥陀經 此は源氏

如くもて也

えしとんぬん

何しとんぬん

人も也

字のけり 全活乃場

也全活乃場と是れ也

いしとんぬん

らんれとんぬん

沈死足札

これ源氏の事別る

神とて佛乃不也

場れよよとんぬん

かのも導師乃前

あつて

まるうとんぬん

八議ニある事也

開白く胡死夕死申白

結願之朝書と死行之

人数八人或四人

院もあまをいせり
法念あまをいせり
きふはひさうすまのこま
法念乃亦母屋の南面を
つれ

ろくにんい ころ院のわ
うはとく人あめ
ころもられとくい 講院
院法論あまをいせり
ろく 龍女あまをいせり

まのわさけ 衣し
とほくく 物のあ
まのまきあうはま
憚り也但私とく
まはまをいせり
まふまをいせり

水乃こさうも 龍女
まはくく 物のあ
まのまきあうはま
乃龍女も右別

うらとふ物水のさうし
い草をけりうらむさ
るつじん
みやうも 確統乃下地と
まうつね也
を南と 女三宮御帳
成仙壇と こと事也
もろもに 源のら也女こ
い源氏よりけよのこりて
こそ世をもろじもねん

よの秋に 現存よつこ
とは思ふをねいさり也
ふ花の中乃 後世よは
いん蓮と 是れなも也
こ池中華臺満死と
惣是往生人者 首半片
系死葉待我 同浮同
行人 五會讚
えらひ系成おる
上句いをゆとをりり

つる仙のさくらつしむとつる
よわつり下白に女三宮
乃而出家のる也今生
より別よあるる也
つり

かうつゆんちるのあまき
音深也后乃持扇也
つるちるくともまは
源氏れ作乃ともくつるを
いそつり ねんを源は

女三宮と一蓮託生とは
おほつりさつり

物ふもさく 美徳より
つるのねんち女三宮
蓮よれつりねんち
必定のつりつる
おほつりつるのねんち
もさくつるつり
ねんち
つるつり 捧物也八種

二、必持物ありし也

七僧法服 張

七僧 誦師 經師 呪願
三礼 唄 教奉

堂達 謂之
七僧

御記云天徳四年六月九

日此日理子内親王家於

園城寺於四十九日作法

其佛經具及七僧法服

料物等頒給令調僧使

在進將伊海誦經布施

調布二百端又差侍廿五

六人宛行香役

あわはよひし

皆緩りてすも物也

人々は 縫衣等

三つはさる人等也

山一々 弟子也

こころよ 女之宮行事也

物さけふ 寛也ヒロク大

キナレ也 さまつゝ 日さる

也并舌也 以海師尚
阿耨智弁口あらん也
よはし 内なる事
お卯 なるも也
うしよもあまのいそも
日表 朱藤院より七御
編經乃使 なるも也
院よりなるも 六事院也
すぶともお卯 なるも
省略也

まいつり なるも
日表 院御布施なるも
ゆあんのちよ
蒼花 露なるも 露初
汀 野立 重畳 烟 灰 之
断 霞 晚 寺 僧 帰 困 賦
布施 持 物 の お 月 なるも
なるも 禪 院 なるも
何 分 なるも なるも
僧 なるも なるも なるも

胡よつまてりたりとては
まじり

い海も 女三宮さまの
御ふてよわしくらふ命
おとせまじり也

院はとも 東蕃院也

也処命乃こまは云兼字

ちりり

よんくまてり 六条院の
海女

くちねてうたさう六条

院よおんすも也

御封のもの 二所也封也

みなふらふよそし

朱蕃院は也処命のお也

封乃おるもはいんせに

糸よあふしして女三宮

乃こちうはあつとんい深

成れこまてつとてはら

らまゆり也

あふららりりーんせ

志しき事なす

秋晴しき事なす

亦も現に家及る前の色

もみしき事なす

り也

身しき事なす

女之書しき事なす

り也

身しき事なす

投りしき事なす

十人しき事なす

十人しき事なす

身しき事なす

身しき事なす

今にしき事なす

身しき事なす

女之書しき事なす

り也

人しき事なす

女之書しき事なす

若子いふは 松

よはふらん也

くはしむるもまはる

人備ふるは

らるはま

大この秋

珍貴は方人

られらる下

—

はあ

ふらふら

は

ふらふら

ふらふら

ふらふら

ふらふら

あ

ふらふら

ふらふら

ふらふら

源氏物語の世をあらわさ
るは神の景記もこと
わらわらふも今乃ねと感慨
をまゝにあらわす

おもしろいもの——
しよとまゝにあらわす
こゝろに折つた八月十五夜
まねて六条院の山遊子
やいふやうな歌也
おもしろいもの

夕音也

おもしろいもの
源氏調
いふことばも
おもしろいもの
おもしろいもの
おもしろいもの

月がえん——
八月十五夜
おもしろいもの
おもしろいもの
おもしろいもの

拾遺ニあり

ふつと 吾乃るを將を
とれ集りあはせとさる
又集りあはせ

月みよしの

清くても月よの秋にちか
とさるにふしあはせ
こよしのあはせ

之を初申新月也二千里
外好人の

坂行大納言の 栢木也

二千里外 親母のちかへ 坂入

心坂行大納言 ちかへ

くさるさるや ちかへ

ちかへ 坂木也

みよしのちかへ 女三宮也源氏

ちかへ

こよしのあはせ

くさるさる ちかへ

あつちかへ

おまじの石あそび

是より冷泉院より

せうごころありける後

あそび地よりけり

お大弁 お梅お大長也

式ア大梅系田なり

禁中月宴もすりける

退散しけるお大弁 式ア大

梅冷泉院へあつたお

お大長院へあつたより申

おは六条院へお使あは

し也

雲はくるとおまじ

別あつて 深おまじ

し也

おまじの六条院より

しに後御あつても

あつたおまじの

おまじの人よあそび

あそびの朝也

冷泉院も今の院よりのも
りふたさうもあつた御
しちの御をほいさくお下
りあつたつたつたつた
そこの御をほいさくお下
りあつた

月影にたつたつたつた

丁朝

こころの外の日をたつた

つたつた

御宿つたつたつたつた

冷泉院の御位をたつた

あつたつたつたつた
つたあつたつたつた
つたつたつたつた

源氏の御位乃は別
乃はつたつたつたつた
昔今あつたつたつた
つたつたつたつた
つたつたつたつた
つたつたつたつた
つたつたつたつた

院のふくらみよーん

ふくらみ行

院のふくらみよーん 海女と岩

アツキと日車也

志ささね 直衣布袴也

^園 深衣より名物也

深衣と昔のつゝあふりん

西宮妙云上宿者直衣下

着下襦袢隨便不者事

ふくらみと 車中より

ふくらみと 院のふくらみ

ふくらみと

ふくらみと 西向の海

ふくらみの神より

海は又ふくらみと 振舞

海女と深衣と

またふくらみの 深衣

ふくらみのふくらみのさゆ也

ふくらみと海女と

ふくらみ也

わんとのしぬく
冷泉池也林三丈也

おんむねのすく

おしりさの詞也何れ也

ちゆのん是非なくわ

てすらのはよのつお也

りろくもちぬ事也

全感よすのるも何ぞ

たけりつからつぬ也

ころもくもく 詩也

と世と捨三河よ何れ

ふんもくもく

六條の院に 西に其の

りきゆともちり

中子れぬるも 秋好中

言也

ちもつとつぬ 号号也

終つる事也 早下の朝也

かいつよつたえもぬり

源氏よの年齢可もわら

人も出家一早世一
ひんがし

さきくも 我門しらけぬ
つもあやし事也

こころのの 九重のりあ
ら陽のくもりり

おほつちあまの 今い衆
院寺一人のやうそ地

いねとすらねるよ 秋好才
ふしはいもかたしん也

ふんがもらしたわよ

秋好の本意あつし事也

みま一人はうむいゆく世よ

奇の女品集
こころのうまはなえわ世
かた

あまのやうらねいねん

秋好に徹子に比し事也

むね

よまう 秋好といふ事

いねももうねと海舟

もいまたやねとあま

いふ事しるすは道なき也
今おのふ心はくらくく
人の心よしの心也
ふくせしに縁あり

中堂の心也心の神もつ
く縁は乃案一はくあ
とらふ心也

ち心ひけし心も 心も案不
にあちる也 心もあち
あちる心縁は乃案一

かく心は心の心は心也
きく心人の心は心也
中堂乃案也

心は心の心は心也
心は心の心は心也
心は心の心は心也
心は心の心は心也
心は心の心は心也
心は心の心は心也
心は心の心は心也
心は心の心は心也

今はついでにらんを
しるす也

いふはついでにらんを
しるす也

すまじき事なり也

なりし事なり 秋好なり
とて世にありてはしるす
と報へし事なり也

けよき事なり 源氏の事なり
る事なりなりし事なり也

す也

ふたりの事なり 大徳なり

事なり源氏の事なり也

目蓮の佛よりしるす也

目蓮救母経よりしるす也

目蓮の母地獄に墮ち

てすして餓鬼畜生に

なりて天よりしるす也

孟蘭盆経にありて餓鬼中

に救母経にありて炎焦熱

地獄中より地へは
仙よ親近するも

かしくこそびくは

すも漸くおの志を

おこしふもゆきも

れも

ふつふつと

流ゆも出家のふあり

さありあつて

きかしく静ちる

くさくさ

くさくさ

くさくさ

くさくさ

くさくさ

くさくさ

くさくさ

くさくさ

くさくさ

くさくさ

海の子に上座りたるおれ

供養ある也

春子お女御 御名申す也

くはちと池 御名申す也

さるるもあつたも

乃心懐位と也

人のゆゑ 命泉地也

海印も秋好の古出家なる

にやうな

あはれ

